

イネ縞葉枯病の病徴

1. 縞葉枯病の病徴

- 分げつ初期に発病すると、下葉は健全葉と変わらないが、抽出中の葉は黄緑色ないし黄白色になり、こよりのように巻いて徒長し、曲がって垂れ下がる。
- やや遅れて感染すると、新葉の葉脈に沿って黄緑色ないし黄白色の縞状の斑紋を生じ、激しくなると全体が黄化する。罹病株は草丈が低く、分げつ数も少なく、全体に萎縮症状を示す。(大畑貫一 稲の病害 全国農村教育協会)

2. 診断の要点

- 分げつ初期には抽出中の芯葉が黄緑ないし黄白化し、こよりのようになりわん曲する。
- 分げつ中期以降では抽出中の葉が葉脈に沿って縞状に黄緑ないし黄白化する。
- 葉が黄化する病気には黄化萎縮病、ばか苗病、黄萎病、グラッシースタント病、トランジトリーイエローイング病、わい化病がある。(大畑 同上)

3. 葉が黄化する病気 (大畑 同上)

表1 葉が黄化する病気

病名	病原	媒介	発生地帯など
縞葉枯病	<i>Rice stripe virus</i>	ヒメトビウカ など	
黄化萎縮病	<i>Sclerophthora macrospora</i>	水媒伝染	
ばか苗病	<i>Gibberella fujikuroi</i>	種子伝染	
黄萎病	<i>Phytoplasma</i>	ツマグロヨコバイ	×
グラッシースタント病	<i>Rice grassy stunt virus</i>	トビイロウカ	×
トランジトリーイエローイング病	<i>Rice transitory yellowing virus</i>	ツマグロヨコバイ など	沖縄県 ×
わい化病	<i>Rice tungro spherical virus</i>	ツマグロヨコバイ など	×

- 本県で本田初期に発生する可能性がある病気は、縞葉枯病、黄化萎縮病、ばか苗病である。



図1 黄化萎縮病



図2 ばか苗病



図3 縞葉枯病